

# 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	産学官連携による実践的ICT活用・地域再生クリエイター育成プログラムの開発		
法人名	学校法人コア学園		
学校名	唐津コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 門田 章	担当者 連絡先	木原 厚二 TEL(0955)77-1771

## 1. 事業の概要

本事業は専修学校とICT企業・地元自治体・商工会議所・観光協会・JA・水産関係業者・商店街等が連携し、若者に求めているICTを活用した技術力とクリエイト力を、専門家による指導と実務実習を通し育成し、地元企業・団体に多くの若者を就職させ、地元に着用するための人材育成プログラムを開発する。また、実証講座を実施し、人材育成プログラムの有効性を実証する。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

#### (1)資格取得

実証講座「IT・まちづくりスペシャリスト養成講座」は学力達成レベルのマイルストーンとして資格取得試験を実施した。このことで受講者8名は意欲的に資格取得にチャレンジし、日商PC検定試験(文書作成)3級合格5名、日商PC検定試験(文書作成)2級合格1名、日商PC検定試験(データ活用)3級合格3名、日商PC検定試験(データ活用)2級合格1名、Webクリエイター能力認定試験初級合格3名、Photoshop能力認定試験3級合格2名、ビジネス能力検定2級合格2名、日本語コミュニケーション能力認定試験3級合格2名など、果敢に資格取得に挑みながらITの技能を身に付けた。

#### (2)地域振興

10/9、本実証講座「IT・まちづくりスペシャリスト養成講座」の入校式は唐津ケーブルテレビジョンの放映と唐津新聞に掲載し、取り上げられた。また、2/29成果発表会では唐津ケーブルテレビジョンの放映、佐賀新聞に掲載された。また、成果発表会は佐賀県、唐津市、唐津市議会、唐津商工会議所、唐津観光協会、唐津中央商店街、からつ夢バンク、YOSAKOIさせば祭り実行委員会の企業・団体(約30名)の方々を前に成果発表・報告会を行った。つづいて、3/1本校主催山口地区業務報告会(約20名)として、山口ロコ・メディカル学院で成果報告会を実施し、地域の振興を図った。

#### (3)進路(就職)

修了生7名中、就職状況は就職希望者5名中、4名が内定し、すでに職務に従事。1名は就職活動中である。その他、1名は、夫転勤のため引越し。1名はアルバイト中で、近々アジアへ長期旅行に旅立つ。講座修了後半月で就職率80%となり、各自順調に自分の道を歩みだした。

### ②事業により得られた成果

#### 産官学の連携から生まれた人材育成

今回の講座の目的は、ITを活用できる地域再生クリエイターを目指した即戦力たる「まちづくりスペシャリスト」の養成であり、受講修了生7名共熱心に取り組み、初期の目的が果たされたものと考えている。パソコン技術修得及びスキルアップを目的としたITの授業約300時間をはじめ、他に170時間の中で、英会話・韓国語・ホスピタリティマインド(座学とボランティア体験)・コミュニケーション・ビジネス能力等の授業の他、市内視察は勿論、壱岐・門司・下関といった「みなとづくり先進地」への視察並びに意見交換。或いは「まちづくり団体」の方々や有識者の方々から講演頂いた総合講座。そして一番活気溢れた授業としては、唐津市(総合政策部・地域振興部・商工観光部)・商工会議所・観光協会・中央商店街等、「まちづくり」に直接関わっておられる現場の方々との意見交換等、何度となくディスカッションし、胸を借り意見交換を行なうことができた。

特筆すべきは、今回の講座に対し、行政・商工関係者・観光関係者・まちづくり関係者等各位の絶大なるご支援とご鞭撻を頂き、まさに「産・学・官」一体となった《人づくり》に取り組む事が出来た事と思う。

### ③今後の活用

今後については、平成21年度に雇用能力開発機構職業訓練、県職業訓練に提案することや平成21年度に向け本科総合情報科に、当育成プログラムの科目をカリキュラムに加える。また、唐津市はまちづくりに向け、ICT先進企業を誘致し、若い人の雇用の場を提供する取り組みがなされているが、本校はこの取り組みに積極的に参加し、人材育成面から、これまでの経験と人的ネットワークを生かし、より多くの若人を育て、若い人がこの唐津に活躍できる場を創造して行きたい。

### ④次年度以降における課題・展開

これからも人材育成を通し、街づくりに貢献できる人を育てることは使命だと感じている。本校は昨年度、ビジネス系の学科・コースを新設したが、高校生世代にとって大半の目は県外に向いている。魅力と夢を育てるためには、地元住民・企業・団体と国・自治体が連携し、若い人が活躍できる雇用の場(事業)を創造し、地域みんなで支え、地元でしっかりと人材育成することが必要である。活躍の場が海外でもチャレンジでき、やがては地元へ戻って、今度は教える立場で若い人を育てるような、良いサイクルが生まれることを期待したい。弊校はこれからもITのわかる各分野のエキスパートを育てるような、教育プログラム作りにチャレンジし、他校に先駆けてモデル校となるような成果を出して行きたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

以下のニーズ調査を行なう。

①全国の商店街の衰退の原因と現状

②唐津市の歴史と現状

③唐津市のまちづくりの取り組み

- ・既存のインフラをいかに活用してまちづくりを行っていくことが重要。
  - ・コンパクトシティを政策に取り入れ中心市街地の再生を目指す。
  - ・企業誘致などを行い労働環境を確保し、労働人口の低下、若者の流出に防ぐ。
- ④まちづくりの担い手になっていく若者の育成の必要性
- ・主要産業になるであろう観光業をよりアピールするために必ず必要なるICT技術。
  - ・まちづくりに貢献できるような若者を育てる必要性。

### ②カリキュラムの開発

(1)科目毎にシラバスの作成

①専門技術教育科目:ICTの基本から応用まで、情報の収集・加工・分析・発信の能力を身につける。

②専門教養教育科目:基礎的な手法を学び、ケーススタディやディスカッションを通し能力を高め、実地調査を踏まえた提案発表で、実践的な力を身につける。また、専門家の意見を聞いたり、ディスカッションを行う場を設け、情報不足や思い込みによる偏りを無くする。

③実務教育科目:就職対策として、ビジネスの基本動作からビジネスの実務を学ぶ、キャリアコンサルティングを受けながら自分の適性を知り、企業実習を通し、実務能力を向上させ、就職を有利にする。

④教養教育科目:地元の各分野のエキスパートによる総合的な学習により、郷土を深く理解する。

⑤キャリアカウンセリング:授業開始時期に自己分析表を作成させ、この自己分析結果を元に、2名の経験者が前半と後半にキャリアカウンセリングを行う。これにより、個人個人の自己啓発目標と就職目標を明確にし、目標達成に導く。

(2)教材、時間割を作成と担当講師。

上記、科目に対し、適切な教材と専門講師を配置し、時間割を決める。

(3)成果物

- ・資格取得:日商PC検定、Webクリエイター、ビジネス能力検定、コミュニケーション能力検定等
- ・調査資料、研究資料、提案資料をドキュメントにまとめ、再利用できるようにWeb上に作成する。
- ・成果発表時の評価資料

### ③実証講座

実施委員会と実証教育分科会が中心となり、開発教育委員会で開発した教育プログラムを元に、以下の実証講座を実施した。

①テーマ IT・まちづくりスペシャリスト養成講座

②期間 平成19年10月9日から平成20年2月29日まで9:00～16:00（土・日・祝日は休み）

③受講生 8名（修了7名）

④内容 学科（100時間）、実技（470時間）

・IT（300H）、コミュニケーション（日本語、英語、韓国語）（75H）、コーディネート・データ分析・ホスピタリティ（25H）、ディスカッション・卒業研究（70H）、ビジネス能力（34H）、総合講座（22H）、カウンセリング（6H）、現地視察（24H）、ボランティア実習（12H）、その他（2H）

### ④その他

地方の振興を考えると、「産・学・官」が一体なって取り組み、地域の宝とは何かを、地域の人々が認識し、若い人へ伝え守って行くことが、より重要となってくるであろうと考え、まちづくりをテーマに選んだ。地域のエキスパートの人々が、若い人へ伝える教育の場を総合講座・ディスカッションで行ない、新鮮な目で現地を視察し、ITの適応力と柔軟な発想力を、成果発表の場でプレゼンテーション（伝える方法）し、これを見た自治体、団体、企業の方々が採用に向け検討されるような循環がこの事業の特色と言える。